あぁ、結婚！

―婚活日記―

第 28回

黒田長宏

＜2023年8月18日＞

SNS から流れてきた情報で、晩婚や年齢差のある結婚など、結婚難時代で困っている人達にも希望を与えるようなルポをしているライターがいるのを知った。こういう優れた人もいるのだなと思った。名前は大宮冬洋氏である。新書を出されている。（『人は死ぬまで結婚できる』講談社 α 新書）

＜11月2日＞

今回の締め切りのアナウンスから、久しぶりに続きを書こうと思ったが、まさか8月18日に書いたきりだったとは。もっと書いていたかと思った。

マッチングアプリや婚活をしても、効果のない人はまるでないことは私自身が証明できるが、マッチングアプリや婚活をまったくしない日々は、いったいどうやって配偶者が見つかるのか、さっぱり膠着状態である。これで終わりなのだろうか。

終わるわけにいかないと思っているから、こうして、マガジンにお世話になったり、YouTube を続けているのだ。しかし56歳という年齢は現在の社会通念では結婚が難しい。しかしその社会通念を破壊したいというと言葉は強そうだが、変えたいために、こうして書かせてもらったり、YouTube（婚難救助隊）をしているのだ。一時期よりだいぶ書く量が少なくなっているとしても、提出することに意義がある。内容の長短ではない。

＜11月3日＞

今日の『徹子の部屋』への訪問者は夫の吉田喜重を亡くしたばかりの岡田茉莉子だった。岡田が生涯、吉田を尊敬し、お互いに愛し続けたことが感じられる番組だった。こういう事例があるのだから。

箸にも棒にも掛からないような日々を送ってしまう人が大勢いるのが現実だと思う。だけど、こうした発表する場という

のは繕った場であるのが前提であるから、箸にも棒にも掛からないような日々しか送れないような人々の真実は隠れてしまうのではないのかなという気がするのだ。

私は人間を知ることが出来るのかなと思って、大学だけは人文学部の中の心理学のコースを選択したのだが、（時代が移ろい、今では行動科学の範疇になってしまったようだ）心理学こそ科学的という『平均』を導き出してしまうだけのものであって、箸にも棒にも掛からないような、異性の選択に漏れ続けて終えるような人のことはわからないのではないのかなと思ったりもする。

では、何ならわかるのだろうか？松本清張かな？

面倒くさいので日本語に訳して書くが、オフィシャル髭男ディズムの『プリテンダー』という曲は、某困ったことをしてしまった男優の出演した映画の主題曲だと思うが、なんだか意味深な気がしていた。この２段落は脈絡がないように思えるかも知れないが、私としては、繋がっているように思うのだ。

公の場という選ばれた事柄が発表される場所に真実は網羅されるのだろうか？

これで3段落目だが、なんだかんだ記すよりも、配偶者の出現によって、こんなことを考える必要も無かったかと思えればいいのに。と思う。そうした意味で、やや古く戻って aiko の『桜の時』という曲は、『プリテンダー』と似たことを歌っているのかなと思う。人生はやり直せないけれど、やり直すには出会いしかないのではないのかと思うけれど疲れる。

私の YouTube の登録者はこの時点で３５７人。１人減ってしまった。